

第1部

- ♪ ゴリウオーグのケーキウォーク C. ドビュッシー
- ♪ スポーツと気晴らしから
 ウォーターシュート ～ タンゴ ～ そり E. サティ
- ♪ ジムノペディ 第1番
- ♪ あなたがほしい(ジュ トウ ヴ)
- ♪ 夢のあとに G. フォーレ
- ♪ S. V. P. A. ピアソラ
- ♪ ツィガーヌ タンゴ
- ♪ ノニーノ
- ♪ 愛の讃歌 M. モノ
- ♪ スカラムーシュ Op165c D. ミヨー
 1 ヴィフ(明るく活発に)
 2 モデーレ(穏やかに)
 3 ブラジレイラ(ブラジルの女)

第2部

- ♪ 思い出に逢える夏 春畑 セロリ
 夏は来ぬ、たなばた、うみ、浜辺の歌、富士山
- ♪ 三十五億年のサーカス 林 光
 ～ぼくがつきをみると～
 三十五億年のサーカス
- ♪ 夏の思い出 中田 喜直
- ♪ 椰子の実 大中 寅二
- ♪ 平城山 平井 康三郎
- ♪ ふるさと 岡野 貞一
- ♪ カキクツケコ 平田 聖子
- ♪ 五木の子守唄 熊本民謡
- ♪ わらべ歌春秋 千秋 次郎

演奏者プロフィール

マリンバ：明瀬 由武 AKASE Yoshitake

東京芸術大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業。各ラジオ・テレビに出演。ポピュラーの分野でも全国的に演奏活動を行う。NHK FMにて新実 徳英「For Marimba I」、西村 朗「ソロマリンバのための詩曲」他、数多くのマリンバ作品の初演をする。青年海外協力隊々員として中米コスタリカに派遣され、国立音楽院ソルフェージュ科教授、国立交響楽団打楽器奏者として、国立劇場をはじめ各地にてリサイタルを行う。現在、東京・つくばをはじめ各地にて演奏活動を行っている。

CD「マリンバの贈り物～クリスマスの日～」

CD「マリンバの贈り物パート2～星降る夜に～」

<http://museum.world.coccan.jp/y.akase/index.html>

ピアノ：榊原 道子 (SAKAKIBARA Michiko)

東京芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。同大学大学院修了。東京芸術大学定期演奏会、東京文化会館推薦音楽会、都民コンサート等に出演。林 靖子氏、ビクター・ローゼンバウム氏、安川 加寿子氏、高良 芳江氏に師事。

現在、独奏をはじめ伴奏、室内楽等の活動を行っている。

編曲者

野田 雅巳 NODA Masami・・・ウォーター シュート、タンゴ、そり
ジムノペディ第1番、ピアソラ作品、林光作品

野口 道子 NOGUCHI Michiko・・・ジュ トゥ ヴ

吉岡 孝悦 YOSHIOKA Takayoshi・・・愛の讃歌、五木の子守唄

水沼 寿和 MIZUNUMA Toshikazu・・・スカラムーシュ

佐々 涼子 SASSA Ryoko・・・夏の思い出、椰子の実

出田 敬三 IDETA Keizo・・・ふるさと

アンケートにご協力ください。パソコンの方はホームページから、



携帯の方は左のQRコードからお送りください。
お待ちしております。

主催：久守文化基金

第6回

音の玉手箱

～フランスの歌、日本の歌～



マリンバ 明瀬 由武

ピアノ 榊原 道子

つくば アルスホール

2018年6月30日(土) 2:00PM / 6:00PM

第1部

♪ ゴリウォークのケーキウォーク

C. ドビュッシー (1862~1918)

ドビュッシー (Claude Debussy) が、作曲したピアノのための組曲「子供の領分」の1曲です。当時流行っていたユーモラスな黒人の人形 (Golliwogg) が、やはり流行りのケーキウォーク (Cakewalk) を踊っている印象を曲にしました。

♪ ウォーター シュート~タンゴ~そり

E. サティ (1866~1925)

サティ (Erik Satie) は「音楽界の異端児」、「音楽界の変わり者」などと呼ばれていますが、新しい試みをして西洋音楽に大きな影響を与えました。「ウォーター シュート」(Le Water-Chute) では、酔ってしまいそうな船に乗っている人たち、「タンゴ」(Le Tango) では、悪魔が人の心を冷たくするための果てしなく続ける踊りが、「そり」(Le Traîneau) では、奥様たちのそり遊びの様子が描写されています。これらの3曲はシャルル マルタン (Charles Martin) のイラストに曲を添えるという依頼から1914年に書かれた「スポーツと気晴らし」~序曲と20曲の小品で構成~に含まれています。

♪ ジムノペディ 1番

E. サティ

彼は3曲の「ジムノペディ」(Gymnopédies) を書いています。「ジムノペディ」とは古代ギリシアの神々をたたえるお祭りのことを言うらしいのです。特に1番が彼の代表的作品として有名です。

♪ あなたがほしい

E. サティ

「あなたがほしい」(原題: Je Te Veux) は、サティが生計のために、カフェのピアニストや、キャバレーのための歌や付随音楽の作曲家を続けていた約15年間(1890-1905)に作曲された多くの作品のなかの代表作です。もとは歌とピアノのためのシャンソン(フランスの歌謡曲)ですが、サティ自身がピアノや多くの楽器のために編曲をしています。

♪ 夢のあとに

G. フォーレ (1845~1924)

フォーレ (Gabriel Fauré) は作曲家、教育者、オルガン奏者です。特に「レクイエム」は演奏回数も多く、よく知られています。

「夢のあとに」(Après Un Rêve) はフォーレ作曲の歌曲集「3つの歌」の第1曲ですがヴァイオリンやチェロの編曲が有名です。

歌詞は、イタリアのトスカーナ地方に古くから伝わる詩を、詩人ロマン ビュッシーヌ (Romain Bussine/1830-1899) がフランス語に翻訳したものが付いています。

♪ S. V. P. ツィガーヌ タンゴ ノニーノ

A. ピアソラ (1921~1992)

アルゼンチン生まれのピアソラ (Astor Piazzolla) は、タンゴ演奏者、作曲家として有名です。1954年、自身のタンゴ音楽に限界を感じてクラシックの作曲家を目指したいとフランスに渡りました。しかし著名な音楽教育者ナディア・ブーランジェ (Nadia Boulanger) から「タンゴこそピアソラ音楽の原点!」と指摘されて、フランス滞在はわずか1年で終わりました。この3曲 (S'il Vous Plait, Tzigane Tango, Nonino) はその期間に書かれたものです。

♪ 愛の讃歌

M. モノ (1903~1961)

作詞エディット・ピアフ (Édit Piaf)、作曲マルグリット・モノ (Marguerite Monnot) によるこの曲 (Hymne À L'amour) は、シャンソンの代表作として世界中で親しまれています。

♪ スカラムーシュ Op.165c

D. ミヨー (1892~1974)

ミヨー (Darius Milhaud) は「フランスの6人組」の一人です。スカラムーシュ (Scaramouche) を調べると「黒いマントをまとった喜劇中の道化役。ほらふき。空いばりする臆病者…」と出てきます。

この曲のオリジナルは1937年に、こどものための劇「空飛ぶお医者さん」に付けた音楽 (Op.165a) です。ミヨー自身が二台のピアノのために作り直したもの (Op.165b)、アルトサクソフォンやクラリネットとオーケストラのためのもの (Op.165c) があります。

なお、1年ほどですが、ミヨーはブラジルに滞在したことがあり、3曲目はサンバのリズムからなっています。

第2部

♪ 思い出に逢える夏 春畑 セロリ

「夏は来ぬ」「たなばた」「うみ」「浜辺の歌」「富士山」

春畑 セロリさんは、作曲、編曲、執筆、プロデュース、全国でのセミナーなど、精力的に活動をしている方です。

「思い出に逢える夏」は2016年夏の作品で、「春、芽吹きするとき」「心揺れる秋、心満ちる秋」「冬は暖炉のそばで」の3作と合わせ、私（明瀬）が委嘱した「マリンバで奏でる日本の四季」のうちの1曲です。

♪ 三十五億年のサーカス～ぼくがつきを見ると ～三十五億年のサーカス

林 光(1931～2012)

この長いタイトルの作品は、林 光のふたつのソングをつなげてひとつの編曲作品にしたものである。「三十五億年のサーカス」の原曲は舞台劇「ブランキ殺し上海の春」の劇中歌（佐藤信作詩）、「ぼくがつきをみると」は谷川俊太郎訳によるマザーグースの詩につけられた音楽。編曲委嘱と初演は通崎睦美（2010年）。

ふたつの曲のあいだに音楽的な繋がりはない。どちらもその歌詞に「月／つき」という単語があらわれる、というのは単なる偶然か、それとも初演がお月見のころだったから？（野田雅巳記）

♪ 夏の思い出 中田 喜直(1923～2000)

江間 章子の詩「夏が来れば思い出す、はるかな尾瀬遠い空・・・」に中田が作曲し、昭和24年（1949）NHKで放送初演されました。音楽の教科書に掲載されていることもあり、幅広い世代に親しまれています。中田は「ちいさい秋みつけた」「めだかの学校」「雪のふるまちを」なども作曲しています。

♪ 椰子の実 大中 寅二(1896～1982)

島崎 藤村の詩「名も知らぬ遠き島より 流れ寄る椰子の実一つ・・・」に日本放送協会の依頼で大中が曲を付け昭和11年（1936）に発表されました。当時の有名な歌手により、多く放送されたこともあって様々な場所で広く歌われるようになったとも言われています。

♪ 平城山 平井 康三郎(1910～2002)

歌人 北見 志保子が磐之媛(仁徳天皇の皇后)陵をテーマに詠んだ2首に、平井 康三郎が昭和10年（1935）琴の響きを取り入れて作曲しました。平井は「とんぼのめがね」「お江戸日本橋」なども作曲しています。

♪ ふるさと 岡野 貞一(1878～1941)

数ある歌の中でも、もっとも親しまれている「ふるさと」は、作詞 高野 辰之、作曲 岡野 貞一により、大正3年（1914）に音楽教科書「尋常小学唱歌（六）」に初めて掲載されました。このコンビは、「春が来た」「春の小川」「朧月夜（おぼろづきよ）」「もみじ」など数々の名曲を作り出しています。

♪ カキクックコ 平田 聖子(1960～)

この曲は平成8年（1996）にマリンバとピアノのために作られました。平田さんは演奏にあたって次のようなイメージを付けています。

「曲は、力行とう行の響きの二つの部分からなります。力行とはマリンバの歯切れの良い音色、う行はマリンバのトレモロのイメージです。」

♪ 五木の子守唄 熊本民謡

11世紀後半から熊本県五木村に伝わる民謡ですが、古関 裕而が昭和26年（1951）に編曲し、全国的に知られるようになったとのことです。

♪ わらべ歌春秋 千秋 次郎(1934～)

千秋 次郎は京都大学大学院工学部修了後同大で助手を勤めた後、作曲家に転向した経歴の方です。作品は400曲近くありますが、洋楽器と邦楽器の共演作品も多く書いています。

「わらべ歌春秋」は、日本全国に広く知られている「あんたがたどこさ」「かぞえうた」「ずいずいずっころばし」のわらべ歌がメドレー風になっています。「かぞえうた」では、ピアノパートから「六段」が、マリンバパートからは「かごめかごめ」が聞こえてきます。